

科目名	補聴器・人工内耳Ⅱ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15 回	時間数	30 時間	2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	2年 後期
【授業の目的・ねらい】 聴覚障害者（児）に対し、最良と考えられる補聴器の適合、評価、装用指導する為の聴能学、補聴学に基づく理論、技術を習得する。								
【実務者経験】 大阪府立身体障害者福祉センター病院にて、言語聴覚士として耳鼻咽喉科領域リハビリの従事経験。								
【授業全体の内容の概要】 補聴器・人工内耳などの装用と手術に関する基礎知識と聴覚補償について理解できる。 臨床と国家試験に則した基礎的知識を身につける。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 聴覚障害児、者の補助手段の中で、主として用いられる補聴器の適合と訓練方法を修得する。								
回数	講義内容							準備物(教材)
1	補聴器について理解できる。							プリント
2	補聴器の適応について理解できる①							プリント
3	補聴器の適応について理解できる②							プリント
4	補聴器の種類・構造・特徴について理解できる①							プリント
5	補聴器の種類・構造・特徴について理解できる②							プリント
6	フィッティングについて理解できる①							プリント
7	フィッティングについて理解できる②							プリント
8	フィッティングについて理解できる③							プリント
9	デジタル補聴器とアナログ補聴器について理解できる①							プリント
10	デジタル補聴器とアナログ補聴器について理解できる②							プリント
11	デジタル補聴器とアナログ補聴器について理解できる③							プリント
12	補聴器装用訓練について理解できる①							プリント
13	補聴器装用訓練について理解できる②							プリント
14	補聴器装用訓練について理解できる③							プリント
15	総合復習							プリント
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 『言語聴覚士テキスト第3版』医歯薬出版 『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学』医学書院								
【準備学習・時間外学習】 授業中に行なうまとめ講義をプリントに沿って復習し、理解しておくことが求められます。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。								